第10回蕨市アウトメディア推進大会

北小学校　養護教諭　北浦もも子

令和3年11月20日(土)、第10回蕨市アウトメディア推進大会が開催されました。

昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止となった本大会ですが、今年度は蕨市公式Youtube限定配信での開催となり、148名の参加がありました。

発　表　北小アウトメディア活動報告

発表者　蕨市立北小学校　代表児童

北小学校では、児童会がアウトメディアに関するオリジナルのアンケートを実施しました。その結果、4～6年生の 59.3％が食事中にテレビやスマホを見ていること、58.8％が1日に2時間以上テレビ、スマホ、パソコンを使用していることが明らかになりました。

この結果を受け、児童それぞれが「MYアウトメディア宣言」を制定し、メディアとの付き合い方を見直す「アウトメディア強化週間」に取り組みました。また、保健委員会からは、食事中のテレビ・スマホによる影響や睡眠時間の大切さ啓発する発表を行いました。

講演　「知っておくべきスマホとのつき合い方~スマホは子どもを賢くするのか!?~」

講師　東北大学加齢医学研究所

認知機能発達寄附研究部門　助教

松﨑　泰氏

時代は一人一台端末

現在、スマホやタブレット等の機能電子端末の保有率、並びに使用者の低年齢化は、歯止めがかからない状況となっています。教育現場においても、ＩＣＴ教育やプログラミング教育、ＧＩＧＡスクール構想などが進み、この流れを止めることは不可能です。ＩＣＴ機器を使用することのデメリットを知り、目的に応じて紙ベース、電子データベースを選択できる環境を目指していかなければなりません。

スマホは子どもを賢くするのか

仙台市学習意欲の科学的研究に関するプロジェクトでは、スマホ未所持、及び使用を1日1時間以内に抑えている児童生徒と比較して、平日に1時間以上スマホを使用している児童生徒は学力が低いという研究結果が出ています。この傾向は平成25年から現在まで変わっていません。

また、睡眠時間と勉強時間を揃えた分析でも、スマホを1時間以上使用している児童生徒の偏差値は低いという結果が出ています。この研究の追跡データの結果では、スマホ使用量を減らすことで偏差値が上昇するという報告もあります。

理解に負担があると創造性にも負担が出る

キーボード入力でノートをとった場合と手書きでノートをとった場合を比較したとき、キーボード入力では、派生的な問題の正答率が下がるという研究結果が出ています。操作に慣れていないことで操作に気を取られ、理解が阻害されることで、派生的な思考が難しくなるということです。

注意散漫な使用をさせない

多様な機能が搭載された電子端末は、様々な方向に注意を振り分けなくてはなりません。学習用途のアプリケーションでも目的に一致するものか、余計な機能がついていないか、気にしていく必要があります。

健康面への影響

学習面だけでなく、健康面への影響も知っておかなければなりません。具体的には、若年性の肩こりや近眼、肥満、睡眠への影響が挙げられます。他にも情報伝達を助ける脳の白質、神経細胞の集まりである灰白質にも悪影響が生じるということが分かっています。常時タブレットを使う授業を1コマ続けるなどの長時間の使用は避け、身体を動かす活動を意識して組み合わせることが大切です。

蕨市アウトメディア推進会議会長である成田弘子先生からは、第10回大会を記念し、蕨市アウトメディア宣言に「健やかな未来へつなぐための上手なメディアとの付き合い方」というサブタイトルが制定されたというお話がありました。また大会後には、記念品として「ネットのいろはカルタ」が市内小中学校に5セットずつ贈呈されています。子ども達がかるたで遊びながら、メディアとの付き合い方を考える機会に活用していきたいと思います。